

CT造影法のパイオニア 八町 淳先生を偲んで



- 司会：宮下宗治 氏 (耳鼻咽喉科麻生病院診療支援部)
 出席：辻岡勝美 氏 (藤田保健衛生大学医療科学部放射線学科)
 平野 透 氏 (札幌医科大学附属病院放射線科)
 石風呂実 氏 (広島大学病院診療支援部高次医用画像部門)
 大沢一彰 氏 (済生会 中和病院放射線科)
 村上克彦 氏 (福島県立医科大学附属病院放射線科)
 小川正人 氏 (産業医科大学病院放射線科)

【略歴】1978年東京電子専門学校診療放射線学科卒業。同年、長野赤十字病院中央放射線部入社、一般撮影・血管撮影・RI検査業務に8年間従事。86年よりCT検査業務に従事(約17年間)。2003年10月より同技術第1課課長(画像診断全般を担当)。2012年4月より同技師長。

【著書】2004年4月刊行『CT造影理論』(編集 市川智章・山梨大学)、2008年7月刊行『血管イメージング』(編集 天沼誠・群馬大学)ほか。

【賞】1994年、1997年、2001年、2005年、2006年、2007年、2009年のRSNA Education ExhibitでCT造影法をテーマに発表。RSNA2006 [Certificate of Merit] 受賞。

【学会活動ほか】日本放射線技術学会会員、CTサミット世話人、北信ヘリカル勉強会代表幹事

2012年8月30日、長野赤十字病院中央放射線部技師長の八町 淳^{はっちょう あつし}先生が、交通事故により急逝されました(享年57歳)。八町先生は、日本のCT造影法の基礎を築き、その普及に努め、造影CT技術の向上に多大なる貢献をされてきました。CT研究を牽引する有志によって設立された、全国的な組織であるCTサミット(2012年「全国X線CT技術サミット」から名称変更)においては、設立当初より世話人を務め、造影CT関係の企画を一手に担うなど活躍されました。八町先生を仲間と慕い、共にCT研究に取り組んできた7名の世話人により、先生の業績を振り返り、その人柄を偲ぶ追悼座談会が行われました。

八町先生との忘れられない 思い出、エピソード

司会(宮下)：今日は、CTサミットの世話人にお集まりいただき、八町先生のお人柄やエピソードについて、また、先生の遺された業績について語っていただきたいと思います。まずは、八町先生との忘れられない思い出やエピソードについて、お聞かせください。

辻岡：八町先生とは、古くからCTについての研究を一緒にやってきました。CTサミットでは、名古屋で開催した第1回からシンポジストとしてもご参加いただき、先生のご尽力により、造影剤の研究が大変進んだと思っています。

八町先生と初めてコンタクトを取ったのは、1994年のことです。その年の北米放射線学会(RSNA)で、八町先生の演題が採択されたのですが、当時の診療放射線技師(以下、技師)

は学会発表の方法などわからないことが多く、「ポスターはどうやって作るの?」と、電話が来ました。パソコンもない時代で、「ワープロ専用機で打って、拡大コピーをして、紙に貼ったら」などとアドバイスをした覚えがあります。

それをきっかけに、CTサミットの世話人になっていただき、造影関係は八町先生にすべてお任せでした。CTサミットでは、第

7回(長野・2003年)と第14回(埼玉・2010年)で当番世話人も務めていただき、CT技術の進歩に貢献していただいたと思っています。先生にやっていただきたいことは、まだたくさんありました。

CTサミットは2013年から東京での定置開催となりますが、八町先生は、小サミットという形で全国各地で開催したいという思いが強く、亡くなられる数日前にも、一緒に企画を考えていました。

平野：私が八町先生にお会いしたのは、RSNAに初めて参加した1994年の成田空港で、「素晴らしい技師さんがいるから」とご紹介いただいたのが最初です。お互いにシカゴも初めてだったので、1週間、行動を共にさせていただきました。展示ブー



司会：宮下宗治 氏



八町先生が当番世話人を務めた第7回と第14回のCTサミット(月刊インナービジョン2003年11月号、2010年10月号掲載) CTサミット公式サイト過去の開催記録参照 <http://www.ctsummit.jp>